第 14 期　葛飾区社会教育委員の会議（第９回）会議録

●開催日時　令和６年４月 23 日（火）　午後２時 00 分～４時 00 分
●会　　場　区役所 706 会議室
●出席者
　社会教育委員　（６人）
　　髙井 正　　萩原 建次郎　　緒方 美穂子
　　齋藤 桂三　　澤村 英仁　　伊藤　香織
　事務局職員　（３人）
　　生涯学習課学び支援係長　　佐藤 吉裕
　　生涯学習課学び支援係主査（社会教育主事）　与儀 睦美
　　生涯学習課学び支援係　　矢作 孝寛
　計９人

次第

１　議事
（１）「すぎなみ大人塾」の振り返り
（２）「かつしか区民大学」と学習支援事業について
（３）提言の構成の検討
（４）今後の会議の進行について
（５）その他

配布資料

〇第８回会議会議録案
〇「かつしか区民大学」と学習支援事業［資料 1］
〇荒川区・杉並区・葛飾区の区民大学・コミュニティカレッジの比較一覧［資料２］
〇協議テーマの課題整理［資料３］
〇第 14 期葛飾区社会教育委員の会議スケジュール（案）［資料４］
〇葛飾区基本計画概要版
〇「地域・社会とともにある都立学校を目指してー都立学校公開講座の在り方を中心にー」（建議）
〇「令和５年度『子どもを犯罪から守る』まちづくり活動支援事業記録集」
〇まなびぷらす vol.35
〇関連事業チラシ（かつしかの文化財、わがまち楽習会、生涯学習援助制度（１回コース・連続学習会コース）、よくばり！おはなし探検隊）

―開会―

○事務局　皆様、こんにちは。本日は年度始めのお忙しいところ、お集まりくださいまして、ありがとうございます。新年度となりました。気持ちを新たにやっていきたいと思っております。

本日、ご欠席のご連絡はどなたからも頂いておりません。生涯学習課長が別の公務で出張中のために欠席いたします。

委員のうち、これまで金町小学校校長の風澤委員にお願いしていたのですけれども、３月でご退職されまして、代わりに同じく金町小学校の校長に就任されました伊藤香織先生が新たに社会教育委員となられました。よろしくお願いします。手続きの関係で、委嘱状の交付は次回にさせていただきます。

ここで、自己紹介をお願いできますでしょうか。

○伊藤委員　４月より金町小学校の校長に着任いたしました伊藤香織と申します。柴又在住でして、学校のも前任がよつぎ小、その前が末広小、その前が原田小学校で、原田小学校では水元地区委員会にお世話になった記憶がすごくあります。葛飾に携わらせていただいておりますので、何か少しでもお力になれればと思います。分からないことだらけですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長　今期の議長の髙井と申します。よろしくお願いいたします。仕事としては、去年の３月まで立教大学の教員だったのですが、退職しまして、現在、早稲田大学などで非常勤講師をやっております。その前は、足立区の社会教育主事として三十数年働き、最後の７、８年は学校支援や、コミュニティスクールの設置拡大などを担当しておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○副議長　駒澤大学の萩原と申します。葛飾区の社会教育委員は初めてなものですから、いろいろと皆さんに教えていただきながら関わらせていただいております。

私は、子ども・若者の居場所というのを、児童館などにも伺ったりしながら、研究テーマにやっております。どうぞよろしくお願いします。

○澤村委員　澤村英仁と申します。東四つ木地区のグループで、地域の歴史や文化などを調べたり、あるいは文化財保護推進委員としてやっています。それから区民大学運営委員なども過去に２期４年ほどやりました。よろしくお願いします。

○齋藤委員　齋藤桂三と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私も現在、区民大学の運営委員の理事を務めさせていただいております。４年目になります。仕事的には今、学校法人の理事長として学校運営に携わっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○緒方委員　緒方美穂子と申します。ＮＰＯ法人レインボーリボンの代表です。レイン

ボーリボンは、子ども食堂、フードパントリー、また、いじめ防止教室やＰＴＡの研修などをやっております。よろしくお願いいたします。

○佐藤委員　佐藤菊宏です。いろいろとお世話になっておりますが、青少年育成水元地区委員会から来ました。この活動は 20 年ちょっとになりますが、４年前から会長をしていまして、会長連絡協議会からこちらのほうに出るという役目となりました。自分自身が子どものことがすごく大好きで、教えることはできないので、一緒になって楽しむということばかりなのですが、皆様のいろいろな意見を頂いて、勉強させていただいています。よろしくお願いいたします。

○事務局　事務局の生涯学習課長は、本日欠席しておりますが、柏原と申します。

○事務局　学び支援係長の佐藤と申します。

○事務局　社会教育主事の与儀と申します。

○事務局　学び支援係の矢作と申します。

○事務局　事務局は異動がありませんでした。今後１年、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方が２名いらっしゃいます。では、お入りください。

（傍聴者入室）

○事務局　それでは、本日の資料の説明をいたします。まず、委員の皆様には、前回の会議録の案があるかと思います。まだ皆様に確認をしていただいておりませんし、報告者の杉並のお二人にも確認がとれておりませんので、外に出さないようにお願いします。皆様にご確認いただきまして、修正箇所がありましたら、メールか電話で、５月７日火曜日までにご連絡をお願いします。

他の資料として、次第があるかと思います。そして、今日の葛飾の生涯学習の説明資料として、「かつしか区民大学と学習支援事業」のホチキス留めのものが資料１です。それから資料２が、萩原副議長のほうで作成してくださったもので、「荒川区・杉並区・葛飾区の区民大学・コミュニティカレッジの比較一覧」です。今日の議論の素材としていただければと思います。

それから資料３は、今期のテーマ、「区民の誰もが生涯にわたって学び続けることができる仕組みづくりについてー“学びによる循環型社会”の構築ー」の課題整理を皆様にまとめていただいたもので、今日の協議の材料にしていただければと思います。

そして資料４が、スケジュールの案でございます。それから、こちら葛飾区の基本計画の概要版ですね。

また、東京都の生涯学習審議会の建議があるかと思います。校長先生のところには別に３月中に送られているかと思いますので、今日は部数が限られているので、置きませ

んでした。もし万一、無いようなことがありましたらご連絡ください。

それから、「子どもを犯罪から守るまちづくり活動支援事業」の令和５年度、昨年度の記録集、こちらも学校のほうには３月中に送られているかと思います。

それから「まなびぷらす」ですね。そのほか関連事業の関係のチラシ等ですけれども、「かつしかの文化財」の最新号と、それから「わがまち楽習会」ですとか、「生涯学習援助制度」、それから子ども対象の「よくばり！おはなし探検隊」という事業のチラシがあるかなと思います。以上が資料の説明でした。

では、この後は髙井議長に進行をよろしくお願いいたします。

１　議事

（１）「すぎなみ大人塾」の振り返り

○議長　では、これから第９回社会教育委員の会議を始めます。

冒頭、関係ないことを言ってしまうのですが、この『月刊社会教育』という、社会教育の関係の月刊誌があるのですね。この号は、「ともに生きる社会教育職員の専門性とは」という特集で、冒頭に私が「社会教育士の専門性と可能性」というインタビューを受けています。読んでみようと思う方、何冊か持ってきましたので声をかけてください。

今日は第９回ということもありますので、いよいよ答申、提言に向けて中身の課題を整理したり、柱を考えたりというようなことに向けて取組を進めていきたいと思います。今まではインプットを中心にしてきましたが、今日は、葛飾の生涯学習についてインプットをしながら荒川、杉並、葛飾区の取組からかだんだん整理していく方向にいければなと思っております。

ということで、今日はまず「すぎなみ大人塾」の振り返りから始めていきますが、前回、３月 21 日に杉並の担当の職員の方と市民の立場で活動している方においでいただいて、経緯とか現状、課題等いろいろなお話を頂きました。大変ユニークな取組で、いろいろなことを感じられたと思いますが、思い出していただくために、少し話します。

「すぎなみ大人塾」のキャッチフレーズは何だったかというと、「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」です。まずは自分を振り返るということで、大人の学習ですから、いろいろな経験をしてきましたので、自分の今までの経験や、家族を含めて生活してきたことを振り返る、「棚卸し」というのでしょうか、それをしようということで「自分を振り返り」という言葉が出てきています。

次の「社会とのつながり」ということで、私たち、杉並の方に限らず、誰かとつなが

る中で、いろいろな人との関係の中で生きている自分というものを位置づけていこうというようなことから、「社会とのつながりを見つける」ということをおっしゃっていました。

最後の「大人の放課後」。「放課後」は何となく楽しいですね。緩い感じで自由にやりたいことをやっていこうと。その辺りわくわくするような体験などもいっぱい取り組まれていたわけなのですが、お酒のことも含めて日々学び合える雰囲気、そんな空間にしていきたいという、そういったコンセプトが「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」になったのかなと思いました。

そういったコンセプト、土台の上に、多様な取組が 20 年続いてきた、ということを前回お聞かせいただきました。

それから、講師的な人を「学習支援者」と呼んだり、また、学習支援者の補助者がいらっしゃるわけですが、参加していた方が、次には支援をする立場になる。その方には「学習支援補助者」という名前もあったわけですが、非常にかたいので、「緩やかに」ということと、地域性を生かした表現というようなことで、例えば浜田山コースでは、「学び合いの伴走人」とか、荻窪コースでは、講師になる学習支援者自体もそうした名前をやめて「遊びの案内人」としたり、支援の補助者のほうは「荻窪サポーターズ」としたりということでした。そういった、一つのことにとらわれない、いろいろな地域の中で参加者自体が決めていけるというのは、表現一つとっても緩やかで多様性がある、ということを受け止めました。

その他にも、いろいろと敷居が低いプログラムが作られていたり、プログラムの変更可能性が高いということでした。それをやることが目的ではなくて、やりながら学んだ方たちの感覚などをそこで生かしながら、プログラムを自由に変えていける。そういった取組自体が、杉並区の基本構想に基づき、さらに杉並の教育ビジョンに基づき展開されている、ということもお聞かせいただきました。

具体的には、「ダイバーシティ」「インクルージョン」というキーワードが、基本構想、教育ビジョンに貫かれていて、この大人塾にも貫かれているということでした。区の基本的な方針と一つ一つの個別事業との関係といったことが、とても大事なのだなということも、皆さんと確認することができました。

さらに、総合コースでは、新しい市民性、シチズンシップとして欠かせない「インクルージョン」を中心に学んでいくということで、「当事者学習」というのをやられていた。車いすの東大の先生がコーディネーター、企画者となってやっていた、というお話を聞きました。

いろいろな学習のイメージの学習を展開したり、なおかつ、その上で「大人塾連」と

いう、大人塾の卒業生の集まりについて、朝枝さんから伺いました。杉並は阿波踊りがあったりして何かの「連」がいっぱいあるので、「連」という名前をつけたのかなと思いましたが、多様で自由な取組をやっていらっしゃる。ただ自由な遊びの部分だけではなくて、全校コミュニティスクールを設置しているところでもありますので、「コミュニティスクール実践研究会」という活動があったり、また、「居場所＆出番研究会」「Ｄ＆Ｉ　コミュニケーション研究会」も活動しています。「Ｄ＆Ｉ」というのは「ダイバーシティ＆インクルージョン」のことで、杉並区の基本的な方針となっています。多様な遊び的なもの、自由な振り返り、緩やかなつながりとともに、研究会的なプロジェクトもやっていらっしゃるという、そういったしなやかなところが大事だと思いました。

また、最後のほうで中曽根さんが、行政というのはなかなか「打たれ弱い」ところがあったりする、安定しているようで実際には職員も含めて行政の組織の一部には弱いところもある。そういうときに卒業した人たちが頑張ってくれると、職員と区民が両輪となっていろいろなことを展開していく可能性を広げることにつながる、とお話しくださいました。葛飾区では、なかなか場所の確保が難しいといったときに、自由な発想で場所を確保していったり、学校の工作室でしたか、夏休み中ずっと借りて何かねぶたみたいなものをつくってしまったり。それも校長先生が参加者だったりということがありました。

また、公園を使ったいろいろなプロジェクトのことですが。最初公園課はなかなか見向きもしてくれなかった。しかし、それがしだいにプレゼンしなくてもどんどん協力して、ともに作っていこうという雰囲気が出てきたりとか。そういう、楽しい中でもいろいろな発展、シチズンシップを発揮するような取組なのだなと受け止めました。

では、改めて前回お２人のお話を聞いたり、皆さん、特にディスカッションをしたりする中で、特に感じたところとか、さらなる疑問とかあれば、自由にお出しいただければと思います。

○澤村委員　葛飾区との大きな違いを感じたのは、委託というか、企画自体を任せてしまうようなシステムでした。

○議長　「総合コース」の「チガイ・ラボ」では、共同企画者として講師の東大の車いすの熊谷先生と、編集者の伊藤さんが企画していました。

○澤村委員　「学習支援者」と言って、講座の内容や企画も含めてもう任せてしまうという話があったと思うのです。これに非常にびっくりしました。役所の固定観念にとらわれない発想も出てくるかもしれないけど、どうなるか分からないというのも出てくるのではないかなという気がしましたね。

それから、「大人の放課後」という名前です。やはり、仕事をしてリタイアした人が一番こういう区民大学や講座に参加しやすいと思うのです。だからそういう人たちをターゲットとして、社会貢献に結びつけていくような講座を作るというのもありかなと思いましたが、今回の我々のテーマが「誰もが」ということになってしまうと、どういうふうに捉えていいのかなということも反面感じましたね。

○議長　ありがとうございました。荒川区では「アンダーサーティ」と言っていましたけれども、そういった世代を狙ったものを今年度やっていこうなんて話をされましたね。やはり澤村委員がおっしゃったことは課題として、やっぱり比較的退職者の方とかが中心となることから、もう少し若い世代という話が出ていたなと思いました。本当に「誰もが」というところは、単なる謳い文句ではなくて、それを実現していくための取組というのはとても大事だと、今のお話を聞きながら改めて感じたところです。

○緒方委員　杉並区の場合は理念がすごくしっかりしていて、区の基本構想から教育プランを貫いた学びの考え方というのがしっかりとあって、その上で今、議長から振り返りをしていただいたような柔軟な講座の作り方ですとか、場所一つとっても決められた仕組みの中で、こういう手続をして、この場所を確保するというのではなくて、もう校長先生が一緒に学んだ仲間なので、その校長先生の学校の工作室を使わせていただくとか、すごく柔軟な運営ができていることがすばらしいなと思いました。

もう一つは、「居場所」と「学び」というのがすごくリンクしているというか、学ぶ人の居場所になっていることが、循環していく原動力になっていて、卒塾生や、学びを１回終えた人が、また次の学びの企画を立てたり、新たに学びのサークルに入ってくる人の面倒を見たり、サポーターになっていったりという形で、世代的にも循環していく仕組みがすばらしいと思いました。

○議長　ありがとうございます。何か大人塾のお祭りなんかでも、最後みんなで踊ってみたりとか、そういう仲間づくりもしながら、何か分からないけど楽しい、というのがあったり、一方で成果発表会を毎回やり、そこには卒業生の方も参加して。よく社会教育の講座が終了すると、参加したメンバーでサークルを作ろうという話になるのですけれど、それを目指すというよりは、私はここに関わって一緒にやりたいのだ、というところを大切にしている。従来の固定的に学んだらサークルを作って継続していこうということにとらわれない感覚も、いい意味の緩さがあるのかなと感じたところです。

私たちが議論しているテーマが「循環」ですので、学びをどう生かしていくのかというのは、学びで「循環」の視点が大事ということで諮問のテーマになっているわけです。そういったことを具体的に考え、深めていける大きなきっかけを頂いたのかなと思ったところです。

中には公共施設を使わないで取り組むコースがあったり、お風呂屋さんを使う事例もありましたね。そういうのは、なかなか面白い話ですね。お風呂屋さんで地域の活動をすることを「コミュニティ銭湯」と、数年前はよく言われていました。裸になってつながる場所で落語をやったり、講座やったり。それから、一般財団法人が提供する、市民が使える「西荻ベース」などもあります。公共施設もあれば民間施設も自由なところに、役所が使いにくいところでも民間であれば使えるという、そういった意味で官民の両輪というところも、循環の中身になるかもしれません。

では、この部分はまたこれから議論していく中で思い出しながら、議論の中身につなげていきたいと思います。

○副議長　そうですね、杉並も荒川も、結構敷居が低いというか、緩いなと思いました。ネーミングからしても「大人の放課後」というネーミングで、遊びをイメージさせてくれるような、面白さを喚起する、そういう雰囲気づくりというのは両方に貫かれて共通していた気がしました。

○議長　すっと入りやすいということは大事ですね。参加する人しか参加しないと言われていますので、参加のハードルを下げていく、というところは大切ですね。

○佐藤委員　前回欠席しまして、この記録集を読ませていただいたのですけれども、面白そうだったなということです。感想としては、すごく敷居が低くて、子どもでも参加して意見を出せるコースがあったり、ごみの問題など身近な問題で、参加しやすい。そういったことが簡単に取り組めているように思えます。誰もが利用しやすいコンビニや、銭湯を利用するとか、すごいアイデアだなと思ったのです。葛飾も、だんだん銭湯がなくなってきているのですけれども、そういったところも利用できたらいいなと感じました。

あと、「じぶんラボ」の中で「高信頼性組織づくり」という言葉があったのですけれども、これは、私の地区委員会の中でも、こういう信頼性の高い組織づくりは必要だなとつくづく感じました。聞けなかったのが残念です。

○議長　この記録集の中には様々な今までの取組をまとめられていたり、学習支援者の名前が全部出ていたり、多様な方たちが出てくる。話を聞いていて、職員の一番大きな役割というのは、学習支援者の方を探し出すということなのかもしれません。今の杉並の状況や、地域の方が学びたいと思うことと、講師になる方が持っている力とがどんな関係なのか、学びたいと思うことをどのように実現していくのかを考え、そういった方をどのように発見し、コンタクトをとって、交渉してという、そういう調整にとても大きな力量が生かされていると思いました。

そういう意味では、プログラムの中身づくりはそれぞれプロなり、学習支援者である

講師と補助者とそういった方たちが中心に動いていく。ある意味職員と共に活動を担う人たちの役割分担なども一方であるのかなと感じたところです。

見ていくといろいろなことをまた発見できるかと思いますが、また今後、記録集を見ていただければなと思います。

○澤村委員　コンサルみたいなプロではないのですよね。

○議長　プロの方もいらっしゃるのです。

○澤村委員　いらっしゃるのですか。

○議長　はい。やはり最近、学びを作ったり、ワークショップを運営したり、そういったことをプロとして請け負ってやる人たちが出てきて、杉並もそういったＮＰＯ法人か会社か分からないのですが、いらっしゃいます。

荒川区のコミュニティカレッジも、そういった人たちが事業の一部を担っています。相談や打合せは、「コンサル料」ではなく「助言料」のような形で１時間幾らとか、Ｚｏｏｍでの対応は幾らとか、そのようにしているようです。今年度の荒川コミカレのプログラムの「何とかラボ」には、そういった請け負ってやっている方もいらっしゃいます。

そういう意味では、学習を作ったり支援したりすること自体が、１つのマーケットにもなってきた時代ですね。いいか悪いかは別かと思うのですけれども。そういった人たちの力を借りるというのもあるのかもしれません。いろいろな考え方があるかと私は受け止めています。

学習してきた方がそれを生かして仕事を作って、また市民の学習支援をすると、こうした時代になってきたのかな、と感じています。

○副議長　そういう方たちが、また受講生の方々の力量を高めていくというか、また発揮していくように立ち居振る舞ってくれればいいかなと思うのですけれども、何か自分の仕事として、それを生業としてやっていこうとすると、独占してしまうような、そういうこともあり得るかもしれないので、そういう方向というのは注意深く見たいところです。

○澤村委員　丸投げしたら、生涯学習課が要らなくなってしまうかもしれない。

○事務局　我々の同僚の社会教育主事でも、他区ですが、退職をしてＮＰＯを立ち上げて、子どもの居場所づくりといったところに絡んで、区のいろいろな事業を受託している人もいます。ただ、生業としてしまうと、自分たちで情報を抱えてしまって、受ける方はお客様みたいな受け取り方をしてしまうと、それは違う方向性でしょうし、そういう意味では、やはり杉並の学習支援者だけではなくて、というバランス感覚は大事だと思います。

○副議長　サービスにしてしまわないというところが１つの線かもしれない。どんどんサービス化の方に行ってしまう。それではみんなで協働してこの地域を育んでいくという方向には行かない部分も出てくるかもしれないです。

○事務局　その地域にどれだけ密着して、かつ継続的にやれるかということがポイントかと思います。先日、足立の生涯学習センターが主催で、職員向けの研修会があったのですけど、そこのパネラーの１人として行ったときに、そのコーディネートをした人がそういった民間の社会教育主事のような方でした。以前は、埼玉や他区の職員をしていた方でしたが、その方のおっしゃった内容は、とても的を射ていました。

　あと、葛飾区の生涯学習課の事業に、「わがまち楽習会」という事業がありまして、その中の１つを担当していたのですが、learning for all という学習支援のＮＰＯ団体の若いメンバーの中で、話し合いのファシリテーター役が上手な人がいて、講座の企画会議での司会も上手でした。例えば、会議の最初に、その日のゴール、到達点のようなことですが、ゴールを提示して、グループワークも上手に進めていました。彼は研修をどこかで受けて、身についているのだと思います。とても頼もしいなと思いました。彼らは、葛飾区の子どもたちに継続的に関わっています。

○議長　ある意味社会貢献的な取組で食べていける時代と言えるのかも知れません。以前からそういう社会にならないかなと思っていて、それは少しずつ進んでいるようです。ＮＰＯで食べている人間が増えてきていますので。ただ、収入が厳しいというのはありますけれども。「ミッション」と「生業」というのですかね、それは今、状況としてはかなり変わってきたなと思います。

　本当に大事なのは、副議長がおっしゃったように、「サービス」になってしまうと、学習というのは厳しい面もあるわけです。何でもやってしまうといけないので、『生涯学習支援のデザイン』という、大学で使うテキストを編集したのですけれども、その中に「参加者はお客様か」という項目を作って書いたりもしました。やはり学習は厳しかったり、記録を書いたり、受付をやったりとか、そういうことも含めて、サービスの享受者ではなくて、学習を作っていく主体だということを書きました。しかし、下手をすると学校教育もお客様と思われてしまいますね、「サービス業」という。税金を払っているのだから、保護者が学校に行くから夜９時から打合せをやってくれとか。私も足立区で働いているときに、そういうふうに言ってきた人たちがいたので、教員と一緒に対応したことがありますけれども、それはちょっと違うと思うのですね。

　私たちは、いろいろな方の関わりの中で学んでいくわけですが、「関わり」というのはどんなものを、何を大事に関わりを作っていくのか、ということも問われているのかなと感じました。

○副議長　そのことで１点、触れておきたいのは、私、全国の地域の青年団活動に関わっていまして、北は北海道から南は沖縄まで、また過疎地域、あるいは今回能登半島の奥能登といわれる珠洲市の青年団などにも知り合いがいるのですけれども、彼らはまちの全般のことに関わりながら、やりたいことを好きにやっているボランティア団体なのですね。誰がやれと言っているわけではなくて、自分たちで、自分たち発案でやっているのです。

でも災害の時には、自分たちが窓口になって最前線に立つという、地域防災の最前線に立ったりはしているのですけれども。ふだんの彼らの活動の仕方は、ただだべってだらだらしていることが多いのです。だらだらしながら、おしゃべりしたり飲んだり、トランプやったりとかしながら、また「これやりたくね」とか言いながら、またやりたいことをやって、それを地域の人たちと一緒になって、ほかの世代を巻き込んで、地域ぐるみの活動に発展させていくということは、割といろいろな青年団でやっているのです。

何かそういう行きつ戻りつ、あっちへ行ったりこっちへ行ったりしながら、合理的に一直線に目的志向でこの成果を出しましょうではない、そういう在り方というのがだんだんなくなってきているなと、それは一方で気になっているところです。ＮＰＯ化して、どんどん効率的にファシリテーション技術が高まってやっていくはいいのですけれども、何かぐだくだしながらやっていくという、その中から実は面白いことも出てきたり、あるいはアイデアがうまくいかなくなって、そこからほかの世代に、地域のご意見番の人に「どうしたらいいでしょう」と聞きに行って、そこから活動が広がるなんてこともあったりするのです。今のこの全体としての都市化の中で、都市型のＮＰＯ化というか、そっちの方向性というのは、僕は、一方ではちょっと気になっているところです。果たしてそれだけで社会が回るのだろうかと。

○議長　ありがとうございました。時々横に行ったりすることもあったりしますが、バーンと一直線に行くのより、やってみて面白いんじゃないとやってみるのが、前回のお話の中でも杉並のお話を聞いた上でコメントした中で、ＡＡＲというような、アンティシペーション、アクション、リフレクションというような、ちょっとアクションからやってみようとしてみる。失敗したらリフレクション、振り返りだけれどもチェックとか厳しいのではなくて、気楽にちょっとここ変えてみようということで、ぐるぐるやりながら、行ったり来たりしながら、何か生まれてきたりとか、雰囲気ができてきたりとか、そういうのがまた一つの「循環」かなと、今、副議長の聞きながら思いました。そういう行ったり来たりしながら、特に子どもたちにとっては、やってみよう、面白いから、楽しそうだからやってみようと体験する、失敗したら今度は直して、こっちをやってみようというのを繰り返す中で、本当の力、生きる力、生き抜く力が育まれてい

くのかなと思いました。

そういったいろいろな場面や学習を作ることで、それを仕事にしている人もいる。そういう時代の中で、では葛飾区はどういう方向に行くのか。市民が行ったり来たりしながら力をつけていって、学習の主体者としてその力を生かして、自分たちが地方自治の主体になっていく。そういった、社会教育がもともと目指してきた部分を大事にしながら、では事業自体もどう作っていくのか。プロに任せてしまったほうが楽だよ、なんてことでやっていくのか。区民はお客様、ということで行くのか。どういう方向をとっていくのかということも、きっとこれからの議論の中で詰めていくところなのかなと思いました。

振り返りということで、中途半端かも分かりませんが、議事の１つ目は終わらせていただいて、次の議論に生かしていくということで、進めていきます。

（２）「かつしか区民大学」と学習支援事業について

○議長　では、議事の２番の「かつしか区民大学と学習支援事業」について、これから葛飾がどういう方向を目指しているのかについて、葛飾の区民の方とともに一緒にまた考えていければと思いますが、佐藤さん、説明をお願いいたします。

○事務局　では、私のほうからご説明させていただきます。お手元の資料をめくっていただきながら、お聞きいただければと思います。

荒川区と杉並区の事例の中で、実際に生涯学習、社会教育が取り組んでいる事業が、区の上位計画とどんな関連性を持っているかということを、それぞれお話も頂きました。では葛飾区はどうなのかというところもご紹介しながら、ご説明をさせていただきます。葛飾区の基本計画の概要版を、お手元にお配りしているかと思います。これは当然葛飾区全体の様々な施策の根拠で、具体的な方向性や、こういったことをやっていきますということが書かれているものです。

この基本計画の３ページに、「基本構想」というのがあります。計画を立てるときには構想があって、将来像があるわけですけど、基本構想の基本的な方向性のところに、生涯学習に関わる記述もあります。４ページです。方向性の２番に、「子どもが元気に育ち、誰もが生涯にわたって成長し、活躍できるまち」というのがありまして、その（３）に、「生涯にわたって充実した活動ができるまち」と、表記されています。生涯学習や、文化・芸術、スポーツに関する部分の記述が基本構想にも書かれていまして、28 ページの政策 11 に「生涯学習」ということで、「生涯にわたって心豊かに学び続けられるようにします」ということで、政策として挙げられています。

こういう計画の中では、「計画事業」という位置づけの事業がありまして、生涯学習は新しい計画事業として「学びの機会の充実」というのが載せられています。では、「学びの機会の充実」というものの事業は具体的に何なのということなのですけれども、ホチキス留めの資料１の後ろから３枚目を御覧ください。これは概要版です。施策の体系と、それから施策の１ということでまとめられているものがありまして、「区民学習」と「図書サービスの充実」というのが２本柱になっているのですが、計画事業の「学びの機会の充実」という事業があります。それは、これからご説明する「かつしか区民大学」や、それから、学び支援係という私の係の事業の中の「わがまち楽習会」とか、「団体・サークル支援講座」とか、「生涯学習援助制度」とか、「生涯学習ポータルサイト」などが、「計画事業」の具体的な中身になっています。

その中で大きな事業が、「かつしか区民大学」と、「わがまち学習会」で、これが２本柱になっています。教育振興基本計画の前に生涯学習だけの「生涯学習推進計画」という計画があったのです。今の教育振興基本計画は教育全体をつかさどる計画で、その中に学校教育の部分と生涯学習の部分と２つに分かれています。現行の教育振興基本計画は、３本柱になっているうちの１つが生涯学習ということになっていますが、その前は、生涯学習だけで１本の計画があったのです。その計画の中の、具体的にこういうことをやっていきますよと書かれてある中身の２本柱が、「かつしか区民大学」と「わがまち楽習会」という２つの大きな事業なのです。

「かつしか区民大学」は葛飾区全域を対象にして、区民の学習を支援するための仕組みとして行っているものです。「わがまち楽習会」は、地域ごとに学習会を開いていただいたりとか、企画したり運営したりということを支援する仕組みです。「わがまち」のいろいろな課題を解決するための学習会を自分たちで企画して、そういったものを基に、地域が元気になるための取組をやっていくという事業で、それは現行の教育振興基本計画でも述べられている中身になっています。

では、「かつしか区民大学」という学びの仕組みのご説明をさせていただきます。資料１「かつしか区民大学のしくみ」に、「かつしか区民大学の講座」ということで書かれてある「３つの重点方針」とありますが、「かつしか区民大学」は、区民の皆さんの生涯学習を支援するために設けた学びの仕組みになっています。ですので、特に区民大学の校舎や建物があるということではなく、あくまでも「学びの仕組み」として行われているものです。

実は今年度で 15 周年を迎えます。そういう学びの仕組みとしてスタートして 15 年たっています。当然学びの仕組みですので、入学とか卒業の制度があるということはなくて、自分が受講したい中身を受講することによって、かつしか区民大学を受講したと

いうことです。

この区民大学の仕組みを考えるときに、いろいろな自治体の市民大学とか、住民大学を参考に作っていて、近隣では例えば墨田区でやっていた、「すみだ学習ガーデン」や、立川市の市民大学を参考にしました。いろいろな自治体がいろいろな区民大学、市民大学をやっていて、それぞれ特色があって、例えば「地元学」に特化したようなものであったり、就職につながるような、自分で資格とかを得られるものに特化したりしているものもあったり、そういったものもあります。葛飾区の場合は３本の柱、３つの重点方針を区民大学に設けていて、１つは、いわゆる「地元学」です。地域を知り、まちを感じ、葛飾を愛する「葛飾学」と呼ばれている葛飾の歴史だとか文化だとか産業だとか、様々な葛飾区のことを学んでいただくような講座として行っているものが柱の１つになっています。

もう１つは、今回の「学びの循環」につながるものですが、「ひとづくり・まちづくり・未来づくり」ということで、様々なボランティア養成や、まちづくり、人材養成、そういったものにつながるような分野です。

そういった具体的な目的がある学習だけではなくて、いわゆる雑学的なものや「生きがい」につながるような知識、教養の部分が１つです。この３つを講座の柱として展開してきています。

ざっというと、いろいろな視点から葛飾のことも学びつつ、自分の生き方につながるものもありつつ、地域に貢献できるものもありつつということで、バラエティに富んだ講座を実施していこうということで考えられている学びの仕組みです。

そう考えると、生涯学習は一定の分野だけですので、それが例えば環境だったり、子育てだったり、高齢者であったり、障がいを持った方であったり、様々な分野、ジャンル、そういったものを網羅する学びの仕組みとして作るためには、教育委員会だけでは当然できないということなので、これは区長部局も巻き込んだ学びの仕組みにしていく必要があるねということで、教育委員会の事業としてではなくて、葛飾区全体の事業として進められる仕組みにしました。

そういう意味でいうと、運営のための組織が３つあるのですが、そのうちの１つは「理事会」ということで、齋藤さんが区民運営委員会の代表として理事になられています。理事長は区長となっています。やはり教育委員会事業なので、トップは教育長というパターンが多いのですが、葛飾区の場合はいろいろなジャンルを、しかもいろいろな対象を網羅するために、教育委員会事業ではなくて区の事業として実施をするという仕組みにしましたので、トップが区長ということなのです。

今日「まなびぷらす」という冊子をお配りしていますが、これは今年度の様々な事業

を全部網羅しているわけではないですが、いろいろな事業が掲載されていて、担当課の欄を見ていただくと、生涯学習課だけではなくて、例えばボランティア地域貢献サポートセンターや、障害福祉課、産業経済課、保健予防課など、区の様々なセクションの事業を区民大学に位置づけて実施するというスタイルをとっているのが分かります。その事務局を生涯学習課が担うことになっています。こういう点が、「かつしか区民大学」の特徴的なところかなと思います。

「まなびぷらす」の中に講座情報があり、講座名の左側に「分野」というのがあって、「葛」と書いてあったり、「人」や「知」と書いてあったりします。これが講座の３つの柱をイメージしていて、「葛」は「葛飾学」、「人」は「ひとづくり、まちづくり」、「知」は「知識・教養」の分野であるということで、３つの柱に基づいて講座が分類されています。

それから「学習単位認定制度」というのがあって、講座を受講して単位を取るとスタンプを１個ずつ押していきます。実際に認定証というのを差し上げているのですけれど、30 単位から 300 単位まで区分されています。こういった形でどんどん受講すると認定されて、特に商品券がもらえるとか何か豪華景品が当たるということはないのですけれども、これだけ学んだよという自分の学習の歩みにもなりますし、励みにもしていただくという仕組みです。

余談ですが、最初にこれを考えたとき、自分がやりたいものだけ受けるのだから、全然こんなの役に立たないよ、という話をしていたのですけれども、蓋を開けてみると、自分が興味がある分野はある程度特定されている中で、ほかの分野、自分があまり興味がなかったこととか、やったことがないようなこととか、そういったことも受けてみようか、ということが結構あって、学習の幅が広がったり、知識が増えたり、人間関係ができてきたり、ということにも実はつながっているということが、こういった単純な仕組みですけれども、そういうことも影響しているというのが、実際に担当してみるとよく分かることがあります。

そういった中で、「わがまち楽習会」というのは、地域問題解決型学習というか、いろいろな地域でいろいろな課題を解決したいとか、こんなことをみんなで勉強してみたいということを支援する仕組みとして行っているものです。

それから、「学びの機会の充実」というのが計画事業になっているので、区民一人一人の学びだけではなくて、団体・サークルの活動も支援していこうということで、「団体・サークル支援講座」を実施しています。「生涯学習援助制度」というのは、団体の皆さんが活動を活性化させたりとか、会員を増やそうと思っていたりとか、そういったことを支援する仕組みとして、講師派遣制度として、講師謝礼を支援する仕組みです。

それから、生涯学習、社会教育というとなかなか地味なものですから、いろいろな広報誌であるとかホームページであるとか、そういったものでトップに出てくることはあまりないので、特に区のホームページなんかは生涯学習を調べるにしても、かなり階層が深いところにあって、クリックを何回もしないとそこにたどり着かないところがあるのですね。　これは別に葛飾区に限ったことではなくて、どこの自治体でも同じなのかもしれませんけれど、生涯学習として学びの機会を充実させるためには、やはり学習情報をもっと皆さんの目につきやすいところに置く必要があるよねという議論の中から、「生涯学習ポータルサイト」を、この３月に立ち上げました。

これは単純にいうと、区のホームページに書いてある情報が一覧で見られるサイトです。クラウドサービスを使っているものですけど、ポータルサイトを立ち上げて、「葛飾区生涯学習ポータルサイト」と検索していただくと、ここの画面に行くわけです。今、募集をしている講座の情報や、それからこんな講座をやりましたよというご報告や動画も含めて生涯学習のポータルサイトを立ち上げて、やっと動き始めたところです。これからコンテンツを増やしていったり、将来的にはこのポータルサイトから受講申込みができたり、ＹｏｕＴｕｂｅの動画配信を見ることができたりということもこれからやっていこうと思っていますが、まさに計画事業の中の１つの目玉というか、学習機会を提供していくために学習情報をどんどん前面に押し出していく仕組みとしてこれからやっていこうと思っているところです。

それから先ほどお話をした「かつしか区民大学」の運営組織の中の１つに、公募区民で構成されている「区民運営委員会」という組織があります。今期の社会教育委員の中には、現役の方、ＯＢの方含めて３人いらっしゃいます。なぜ区民運営委員会を作ったかというと、やはり行政が一方的に講座を企画運営するだけでは十分ではないし、区民の皆さんがどんなことを学びたいのかとか、どんなことを学んでほしいのかとか、葛飾区のことをもっといろいろ紹介したいという声も頂いていて、そういった方々の声に応えつつ、区民の皆さんと一緒に講座を企画運営していくことが大事だし、最終的には講座の企画運営だけにとどまらずに、区民大学という仕組み自体のやっぱり運営部分を担っていただきたいという思いも幾つかありました。そういったところも含めて、「区民運営委員会」という組織ができています。

今日お配りしたホチキス留めの資料の中には、区民運営委員会、どんなことをやっているのかとか、どんな仕組みになっているのかということもご説明をさせていただきますので、後ほど御覧いただければと思います。

区民の皆さんと協働して、一緒に講座をつくり上げていったり、運営をしていくことを目指して、区民運営委員会という組織が出来ています。今現在８期を迎えていて、こ

れもいろいろなトライ・アンド・エラーをしながら、１期のときには考えられなかったような運営の仕方や内容も含めて、少しずつ運営委員の皆さんのやりたいことを実現するために、事務局も悩みつつ進めている事業になっています。

特に「葛飾学」の分野については、葛飾区の場合、郷土と天文の博物館があって、葛飾の歴史や文化、郷土のいろいろなことを学べる施設になっていますし、そこに学芸員という専門職もおりますので、そこがいわゆる葛飾学の拠点なわけですが、そこだけではまちの様々なことを学ぶ材料というのは、特に人々の暮らしに着目した講座というのをなかなか打ちづらい部分もありますので、そういったところは特に区民運営委員の皆さんには「葛飾学」に特化したというか、葛飾区の部分で講座の企画をしていただくようなことを働きかけた回もあります。多分６期からだったと思うのですが、６、７、８期については葛飾区に特化した形で進めていると思っています。

あとはご質問いただきながらお答えをさせていただいて、意見交換ができればと思います。

○議長　ありがとうございました。今、運営委員に関わっている方も、経験された方もいらっしゃいますので、そういった方からもコメントを頂ければなと思います。「まなびぷらす」の中の「区民運営委員会便り」というところで、令和５年８期の委員会が実施した講座というのが３つ出ていて、「企画を担当してみて」というのがありますので、委員の方は、委員同士で相談しながらこういった講座も作っていると理解してよろしいですかね。

○事務局　はい。

○議長　今、活動を担ってきた方もいらっしゃるわけですが、改めて担当の佐藤さんのお話を聞いた上で、そのお話を踏まえてご感想とか、ご意見とか、ご経験とか、自由に出していただければと思いますが、いかがでしょうか。

○緒方委員　区民運営委員会を私がやらせていただいたときは、５期か４期でしたが、「葛飾学」には特化していなくて。私がなぜ区民運営委員会に公募でなったかというと、子ども食堂をやりたいという動機がありまして、実際にこの区民運営委員会の中で、子ども食堂の作り方とか、続け方という連続講座を企画させていただいて、定例会で何とかプレゼンが通って、２期やったのですね。

○事務局　そうですね。

○緒方委員　やらせていただいて、かなり何回も、連続の区民大学をやって、結果的に大成功でして、その受講してくださった方たちが実際に子ども食堂を何か所か立ち上げて、そこから人的なつながりもできて、その後、今に至っています。今 160 人ぐらい登録しているメーリングリストがあるのですけれども、「かつしか子ども食堂居・場所づ

くりネットワーク」というメーリングリストが 160 人ぐらい登録しているのですが、そこに至るまでの基礎というか、きっかけができたのですね。

それなので、とても感謝しているのですけれども、なぜ「葛飾学」に特化してしまったのか。

○事務局　「葛飾学」に特化をするというのは、あれもこれもとなると委員の皆さんも興味・関心が様々あるので、お三方は実際に経験をされているので分かると思うのですけど、いろいろな方々の委員の皆さんの協力がないと講座はできないので、その協力体制を生むための基本的な下地みたいなものが、共通のものを作るためには何がいいかと考えたときに、様々なものよりも「葛飾学」ということに共通項があったほうが企画も立てやすいし、運営もしやすいかなというのが事務局の考え方だったのです。

「葛飾学」といっても、本当に幅広く葛飾の文化、歴史、産業、様々な人物、様々な視点が設けられるので、ある意味葛飾ということに着目することで、皆さんが一緒に物事に取り組んだり、一緒に協議ができる下地が作れるのではないかということで考えついたところです。最終形態ではないので、今後はどうしていくかというのは当然あると思いますけれども。先ほど６、７、８と言いましたけれど、７、８かもしれないですね。２年間かもしれないです、葛飾学に特化した。

○澤村委員　我々の時は、特化するようなことはなかったですよね。

○緒方委員　我々のときは、３つの柱にしました。

○澤村委員　４、５期やったのでしたか。

○事務局　多分１期から５期までは、制限を設けていないかもしれないです。

○澤村委員　特にそういう制限はなかったということですか。

○事務局　そうです。

○緒方委員　確かに子どもの問題なんて全然関心のない人のほうが多くて、企画を通すのにすごく苦労しました。

○事務局　やはり共通認識であったり、少しでも関心があって一緒に協力しながら、知識としてはなかったけど、それいいねと言える下地というか、そういったものを作るための共通項として「葛飾学」というのがあったほうが進めやすいし、委員の皆さんにとっても協議しやすいかなと思っているところでした。

○議長　ちょっと確認になるのですが、緒方委員は子ども食堂の作り方という講座を葛飾区の中でやりたいという思いがあって、公募に立候補したというイメージですか。

○緒方委員　そうなのです。

○議長　それを実現するには、運営委員会の中でこういうことをやりたいのだとプレゼンとかをして、みんながいいですよと言われたらできるという、そういう仕組みという

イメージでいいですか。

○緒方委員　はい。

○議長　分かりました。ありがとうございました。

○澤村委員　私はこれといった目標がなくて入ったのですけれども、今、緒方さんの話を聞いても感じたのですが、３つの重点方針の中に「地域に貢献できる人材育成」というのがあるではないですか。まさしくこの区民大学を受講して、個人の教養を高めるということだけではなくて、何か地域に貢献するということにつなげたいと思うのですね。そうすると今、緒方さんがおっしゃった子ども食堂は、その講座から始まって実践につながったわけです。

それから、いろいろな講座があります。手話講習会とかボランティアとかいろいろあって、こういうことを受講して、ある程度知識なり経験なりを得た人たちが、どういうふうに地域貢献できるかというところまで、何かフォローできないかなと思うのですね。

緒方さんは緒方さんで考えて、それは区の力と、自分の力で作り上げていったのではないかなと思うのですけれど、それと同じように、「葛飾学」でもいいし、それ以外のことでもいいのですが、何かそこで培ったことを地域に貢献するような仕組みを、この区民大学の中でフォローできないかなと思います。荒川のコミカレとか、さっきの杉並の大人の放課後でも、地域に戻ってやっているではないですか。そんな気がするのです。そういう仕組みがこの「かつしか区民大学」の制度の中にもできないかなという気がしました。

○事務局　「かつしか区民大学」はそこのところが弱いので、皆さん方に、この社会教育委員の会議で「学びの循環」に向けてのアイデアを頂きたいなということで集まっていただいているところもあるのです。それだけではないのですが。

私は区民大学の始まりの「プレ」の時に企画担当しましたが、それを引き継ぎ本格実施した第１期の時は、緒方さんがおっしゃったように、何かに特化して、例えば若い人たちのために自分はこれをやりたいのだ、という思いで区民運営委員に応募して、面接を受けて、そのことをストレートに言ったら落とされてしまったという人がいました。それだけでは駄目という考え方、もっと広く区民の方向けに講座を考えてもらいたいというのが、当時の担当者の考え方だったようです。

緒方さんのように、具体的な活動を目指している人たちのほうが学んだことが本当に地域貢献につながるという面もあれば、狭くなってしまうという見方もあったりして、「かつしか区民大学」も、方向性は紆余曲折しているのです。それは、現在も、進行形です。

○議長　澤村委員がおっしゃったように、参加したことを通して、学んだことを生かして活動につなげていけるような仕組みとか、それを実現していくような支援の仕組みみたいなものが、これは大きなテーマのところですね、私たちの。

○事務局　そうですね。

○議長　ちなみにこの中で、区民運営委員会の企画によるものというのは、どれとどれがそれなのだと分かるものですか。

○事務局　今回の「まなびぷらす」には、まだ載っていないです。

○事務局　今、企画している段階ですね。

○議長　では、11 ページに載っている令和５年の分が、去年やった企画だということ。

○事務局　そうです。

○議長　先日、懇親会を開きましたが、立石に歩いていくときに、澤村委員から金町浄水場のお話を聞きしました。もともと地域史をやっていらっしゃるので、そんなことに関係していたのかと思ってお聞きしたのですけれども。11 ページの一番下のところが、そういった「地域学」にこだわっているところですか。

○事務局　そうですね、地域の様々な産業であるとか、一番上の噺家の人は葛飾区の方です。そういった方を紹介しながら、葛飾について触れていただくことをやったりというのが最近あります。

○議長　運営委員を経験された立場から何か、皆さん、また、齋藤委員は今、運営委員であり理事であるということなのですか。では、そういう立場で何か考えていらっしゃることとか、課題とか、イメージしていることがあれば。

○齋藤委員　そうですね、もともとは僕も 2020 年に自分の会社を隣の江戸川からこの葛飾区に移転させたことと、30 年ぐらい住まわせていただいているこの葛飾に何か貢献できないかと思って、「広報かつしか」を見ていたら、区民運営委員の募集、公募があったものですから、それで応募させていただいて、その時の面接官が佐藤さんでした。

説明会があって、面接をして、２年で１期ですよということと、最大３期まで運営委委員として参加できますという説明を聞ききました。そのときの募集は７期だったのですが、「葛飾学」に特化したということで講座を企画していただき、委員の皆様と運営をしてくださいということでした。私は７期から今の８期を委員と関わっていますが、基本的に区民運営委員が集まると、「運営の仕方」から始まりました。なるべく事務局はタッチしないようにして、委員のみで運営を考え事務局はサポートというスタンスでした。

７期のときは、運営ルールづくりで半年ぐらいかかりました。人数も通常より少なかったです。委員の人数は最大を 20 人ぐらいとして、15 人前後が一番多かったと聞い

ていました。私のときは 13 人しかいませんでした。６期はグループ分けして、カテゴリーごとに４つに分かれていたと聞きました。グループでいろいろ意見交換をしながら講座を作っていたとの説明も受けました。７期は人数が少ないことから定例会ごとで個々の委員より企画案を出して審議してく形態をとりました。基本的に運営委員それぞれが、自分が興味あるものを提案して、定例会で企画案を聞きながら意見交換をして、最終的に承認を得られれば企画グループを作って講座を立ち上げて、そのまま講座にするという、そういう流れなのです。

実は、私も学びプラスの最後に紹介されている講座を企画したものなのですが。７期は「葛飾学」に特化するあまり意見がまとまらないこともありました。結局文化や観光しかできないではないか。そうすると過去の講座とダブってしまって、企画そのものが難しいと。少し拡大解釈しなければいけないなということで、７期は確か 10 講座ぐらいが企画されたと思います。

区民大学自体が大体 120 講座ぐらい開かれますが、そのうちの 10 講座ぐらいが区民運営委員が企画する講座です。２年間で 10 講座ぐらいという流れになっています。８期は７期から私も運営委員として参加させていただきましたが、「葛飾学」を拡大解釈して、それこそ杉並区の話ではないですが、ハードルを緩くして、「葛飾学」をもうちょっと広い範囲で考えましょうということで、この間、行った講座が「麻雀講座」です。はっきり言って葛飾区には縁もゆかりもないものなのですが、講師は葛飾区で長年麻雀のコミュニティで講師をされている方に、初心者でも分かる講座をやっていただくということで、開講ました。本当にそういう意味では変化してきていると思います。

ただ、１つ課題というのは、運営委員は連続３期で終了ということです。ですから、もっと講座を作りたいという委員からすると、３期で終わってしまう部分です。その後にＮＰＯなどに進めばいいのでしょうが、なかなかそこには行けない人たちもいるのではと感じます。過去７期の中ではそういった委員も少しいるのではないのかなと。なので、そういう委員が杉並区の学園みたいな形で「卒塾生」と書いてありましたが、卒業生みたいな形のところで、また１つコミュニティが作れたら、これは面白いのではないかなと。今度は自分たちが葛飾学と違った講座を主体になって企画できると思うので。

そうすると、今度葛飾学ではなくて、もうちょっと広い枠で、もうちょっと緩くできるのではないのかな。その委員が、区民大学の運営にも携わっていただけると、もうちょっと幅広い運営ができるのではないのかなというのは、今やっていて感じます。理事会でもそんなお話をしていますし、理事の先生方たちからも、今は自分たちの興味あるものを企画して講座にしているけど、そうではないもの、例えば葛飾区内の各自治会の方々のお話を聞く講座であったりとか、様々な講座企画ができたら面白いのではない

か、というご意見が出ています。

○議長　ありがとうございます。１期２年間なので、１期の人も２期の人も、次に申し込まなければもうおしまいになるのですね。申し込んだ場合は３期までで完全に終了になる。

○事務局　はい、６年で卒業という仕組みに、今のところはなります。

○議長　スタートする段階では、毎期ごとに経験がある人もいれば初めての方もいると、そういう状態ですね。

○事務局　そういうことですね。

○議長　その中でいろいろな議論をしながら、こういうものを作っていこうよということで、誰かの思いが通ったりしながら、では、それをどう具体的に企画に生かしていくのかというのは、委員さんで議論しながら。その中で緒方委員のような、提案したことが共感を得て、緒方委員１人でなくてみんなで作っていくことになる。大ざっぱなイメージはそういうイメージですかね。

　そういった区民の運営委員の皆さんがやる講座が、２年間で大体 10 講座ぐらいあると。

○事務局　講座数としてはそのくらいのイメージです。

○議長　１回の講座というのは何回ぐらいですか。

○事務局　回数的にはそんなに多くないですね。連続講座といっても４回がマックスですかね。大体単発のものとか、２回連続ぐらいのものが多いです。

○齋藤委員　ちょっと企画名と内容を変えて、「防災」というと名前を変えて１回講座なのですけれども、やっていたりとか。シリーズではなく防災の視点でやってみよう、あの視点でやってみようという形でつながっている。

○事務局　葛飾は「防災」ということでは、水害もあったり、地震もあったり、様々な課題があるところなので、「防災」といっても水害の部分と地震の部分では全然違いますし、そういったところで、連続講座でやったこともあります。あとハザードマップ自体を自分たちで作ってみよう、ということをやったりもしましたね。

○議長　１回の講座が長くて４回ぐらいですが、２期につなげることもできるという、そういったことにより、何か新たな活動、「人づくり」ということで学んで、つながりが生まれてきて、「地域づくり」につながっていくとか、いろいろな可能性が組み方によってあるのだなという感じがしますね。地図をのぞけばリスクが見えるのは面白い視点ですよね。

○齋藤委員　そうです、現代図と古図を用いて。そうすると川の形がもう全然変わっていたりとか。それによってリスクが見えてきたりします。

○議長　地名に「谷」が入っていると、土地が低いとか。

○齋藤委員　そうです。動物の名前がついているところとかもあります。あと、昔はこんな地名だったのに、全然違う名前になってしまったりして、開発で。「○○が丘」と名前がついているけど、実は開発前の地形は「○○が丘」ではなくて、ちょっと離れた５キロぐらい先にちゃんとした「○○が丘」があって、その場所はそのままで。それを古地図と合わせることで変化が見えてくる、そんな講座でした。

○議長　面白いですね。

○齋藤委員　ちなみに講師の方は、この区民運営委員を５期、６期、７期に区民運営委員として活躍された方にお願いしました。

○議長　そうですか。それだけ公募に応じて手を挙げて、みんなで作っていこうという方がいらっしゃるわけですね。そういった方がそれだけで、１期、２期、３期で終わって、それでさよならというのはもったいない感じがしますね。

○澤村委員　前回かに話したかもしれませんけれども、要するに今、齋藤さんが言ったように、区民大学運営委員というところで、どうしようか、こうしようかと、いろいろみんなで意見を出して揉むわけです。それはまさに荒川のコミカレではないですか。杉並の大人塾ではないですか。荒川や杉並は１年コース、２年コースと、そういうコースを作って、そこでみんな同じことをやって、何かをしようよ、社会貢献をしようよという形で動いているのですが、区民大学運営委員というのは、区民大学ではないかもしれませんが、やっていることは荒川・杉並と同じではないかなという気がしたのですね。それこそが葛飾区らしい、新しい区民大学の形態かもしれません。区民の参画、協働による運営ではないですか。みんなでやって、１つの成果を残して、その先につなげていくと。そのときに付き合った仲間というのは、今でもたまに会ったりしていますよ。荒川とか杉並さんの同窓会とか、同期会とまさに同じような気がするのですね。

そうするとさっきの「地域に貢献する人材づくり」というのもありましたけれども、地域貢献というものを考えたときに、今の区民運営委員会スタイルみたいなものを幾つか作って、それがもう地域貢献に直結できれば素晴らしいと思うのですね。それは区民大学と言わなくてもいいです。運営委員会のままでいいのです。だけど区民の方を入れて、どうする、ああするというのを協議して、実際にその運営に当たるということ。これまでの区民大学の講座のテーマ以外のことでも、できることがいっぱいあるのではないかなと思います。それを同じような形でやって、どこかに成果を示すような形ができれば、これこそが荒川区のコミカレであり、杉並区の大人塾を参考にというか、良い所を葛飾区に取り入れられるのではないかなという気がしました。

区民運営委員会が企画した講座そのものよりも、運営委員会でいろいろやったことの

ほうが、私の中では充実していたかもしれない。講座が駄目ということではないですけれども、「社会貢献」という意味からすれば。

○議長　講座を企画して運営すること自体が１つの「社会貢献」、「地域貢献」だと思うのです。

○澤村委員　荒川区のコミカレに近い形でも、今のような視点で考えれば葛飾らしい区民大学ができるのではないかなという気がします。

○議長　ありがとうございます。葛飾の今の状況をより良くしていく、今ある状況を生かしながら、私たちが提案していくということなので、今あるものを特に大事にして、生かさないと意味がなくなってくると思いますね。

澤村委員のおっしゃったように、人が学んで人づくり、つながりを作ってきた。そのつながりがどこに進んでいくのかというときに、齋藤委員、佐藤委員が言ってくださった、その活動を支援する仕組みというものにまたつながってくるし、それがどんどん循環していくと何かいろいろなものが生まれてくるというイメージにつながってきますね。

○澤村委員　単発の講座だけでは、そういうものがなかなか生まれない。一方通行で知識は伝わるかもしれませんけれども、それをみんなで何かしようよと、地域のために何かやろうよということにはなかなかつながりにくいのです。だからそうすると仲間を作って、一定期間やるということの中から、新たな地域貢献の形が生まれる可能性が十分あると思うのです。

それからもう１つ、博物館の中に「葛飾探検団」というのがあるのです。

○議長　団体なのですか。

○澤村委員　ボランティア組織なのですけど、博物館の中にあって、この資料「葛飾の文化財」の一番後ろ、４ページ目の下に載っているのですが、「ボランティア活動成果展」、「葛飾探検団中川展」という開催のお知らせとあります。私もこの探検団に入っていまして、ボランティアでまち歩きをやったり、それぞれテーマを設けてグループで調べたりして、その成果をここに発表しているのです。今、ちょうど博物館でやっています。「葛飾学」とかそういうのが好きな人が集まっているのかもしれませんけれども、これもまさに、荒川区や杉並区のカレッジなのではないかなと思うのです。

ですから、単発の講座というよりも、何かゼミ形式とか、みんなで何年かやるようなスタイルというのも取り入れてみるといいような気がします。

○議長　ありがとうございました。今の区民大学のこと、よく学びながら、ではちょっとこういうのがあったらもっといいのではないかということも含めて、この中で議論できればなと思います。

（３）提言の構成の検討

○議長　では、ここで萩原副議長の提供の一覧表、３区の区民大学の比較表がお手元にありますけど、これを見ていただきながら、感じられたことを少しお話しいただければと思います。お願いいたします。

○副議長　私のほうで参考までに資料２として、荒川区、杉並区、そして葛飾区のところは空欄にした一覧表を作ってみました。これまで自由に意見交換したのを１回少し整理してみたという意味で、参考までと思います。

まず、この縦の列で見ていくと、３つの区民大学をそれぞれ幾つかの角度で整理すると、一つは親計画とか理念でそれぞれどうだったのだろうなというところですね。今、葛飾区は佐藤さんからお話があったように、区の基本計画というのがあって、そこに生涯学習の政策というのが定められていて、生涯にわたって心豊かに学び続けられるということが定められていて、そこに地元学、地域人材育成、そして生きがい創出という、この３つの柱が理念としてあるということが見えてきたと思います。

２番目の列を見ますと、拠点施設とか、ここには書いてないのですけど、担当部局はどこなのだということで、ちょっと列を作ってみました。拠点施設、荒川区は生涯学習センター、杉並区は社会教育センター。葛飾区は空欄で、特にそれは……。

○事務局　葛飾区は、社会教育・生涯学習の拠点施設はないのです。

○副議長　特にはない。

○事務局　「かつしか区民大学」の場合、フィールドは区内全域の公共施設となります。

○副議長　実際荒川区も杉並区も多分、実際の学習の活動の展開は区内全域のいろいろな施設を使っているのだと思いますが、担当の課は３区とも「生涯学習課」ですよね。実施期間や実施回数で比較してみますと、荒川区は１講座大体 10 か月、全 20 回程度をやっている。杉並区は１講座大体３か月、全７回程度。葛飾区、ちょっとこれ消し忘れているのです、ここは１講座１回ではなくて、１講座１回から、今回の「まなびぷらす」を拝見すると、一番多くて全 17 回があるのですね。「まなびぷらす」の４ページの農業応援サポーター養成講座、これが８月下旬から 12 月中旬ですから５か月間のロングバージョンが１つあります。

ただ、これはある意味、葛飾区さんの場合は、それぞれの講座のテーマに即して、それに適切な回数を割り振っているような、ちょっとそんな印象も持ちますけれども、一応杉並区と荒川区の場合、多分コンスタントにそういう講座にコースを作ってやっているという、そういう形ですよね、１つの型みたいな感じで。葛飾区さんの場合は、非常に講座がバラエティに富んでいて、回数も１回からそうやって複数回まで、いろいろな

回数のものがあるという形になっているようです。

○緒方委員　例えば手話講習会なんていうのは、１年に 22 回ぐらいやって、それを初級から上級まで３年とか４年とか受けますので。

○副議長　そういうのもあるのですね。一応ここには載って。

○緒方委員　手話講習会は全３回、何が全３回なのですかね。

○事務局　多分「初級コース」だと思います、基本は。

○緒方委員　初級が全３回ですか。

○事務局　春期と秋期と、年２回ぐらいやっているので、それぞれのコースごとになっているのですけど、回数的にはそんなに多くないと思います。

○緒方委員　区民大学ではない。

○事務局　多分区民大学ではないコースで、本格的な手話講習会はやっているのです。だけど入り口のところを区民大学に位置づけているということで、他もそうなのですけど、そういう何か技術を得るような講座の場合、入り口が区民大学に位置づいていて、その後の部分はそれぞれの所管で独自でやっていくというパターンが多いのです。例えば読み聞かせボランティアやおはなしボランティア、そういったものは、初級は区民大学に位置づいているのですけれども、中級、上級についてはそれぞれ対象が限定されるではないですか。例えば中級は初級を終わった方とか、上級は中級を終わった方とかという形になっているので、広く呼びかけないものに関しては区民大学に位置づいていないのです。

○議長　誰でも受けられる可能性のあるものだけが区民大学。

○事務局　はい。生涯学習課から縛りをつけているわけではなく、区民大学に位置づけるか位置づけないかというのを担当課のほうで決めています。荒川区、杉並区の事業と比べるのならば、「かつしか区民大学」の中でも区民運営委員会が企画している講座が似ているのかなと。それ以外の事業は役所全体に広がっているので。そうすると、講座回数も１回から４回ぐらいになるかと思います。

○副議長　となるとやはり大体長くて１か月ぐらいで終わるぐらい。

○事務局　はい、そうです。

○副議長　そこはこれまで皆さんからご発言のあったような、やっぱりちょっとその辺のところも一定期間活動するという、この講座の中では、区民大学では葛飾区の場合、あまりないということですよね。運営委員会は一定期間やってはいるのだけれどもという。形式的に比較するとそんな感じなのかもしれません。

　次の列が、学習形態・方法としたのですけれども、今、伺っていて、プラス「テーマ」というのが重要なのだなと思いまして、学習形態・方法、あとテーマですね。荒川

区のコミカレは、まずテーマが「地域学習コース」、「健康福祉コース」と。

杉並区の場合も、「地域コース」、「総合コース」という２つのコースを走らせているのですね。なので、２つの区の区民大学は、この「地域学習コース」や地「域コース」がとりわけ地域をフィールドにして、地域の中に学びの資源がたくさんあるのだということで、結構フィールドワークに出ていく。あるいはそこの地域の人に講師になってもらったり、学習支援者になってもらうという、そういうものができてくるのではないかなというところが、こうやって比較すると見えてくるところですね。

だから必然としてグループワーク、フィールドワークが入ってくるし、体験学習が入ってきて、「参加」型になっているところかもしれません。

それに対しての葛飾区というのが、一応「葛飾学」というのが先ほどのお話のように１講座ですか。「まなびぷらす」を見る限りでは葛飾学は載っていませんが。

○齋藤委員　運営委員の講座が１つも載っていない。逆に多分区のほうが大学だとか、各部署にお願いして、専門学校だとか大学、高校とか、様々なものにお願いした講座というのが今、載っている。

○副議長　なるほど。

○澤村委員　博物館は博物館で講座はやっています。

○副議長　ここに載っていないのが結構あるのですね。

○澤村委員　ええ、そこの連携がどうなっているのかなというところがあるのですけれども、同じようなことをやっているけど、区民大学に位置づけていないものもある。

○副議長　そうすると「葛飾学」というのが、ほかの２区と比較したときに、参照したときには、そこは地域にアプローチしているところですね。

あとこちらのボランティア・地域参加のマークですね。こちらの葛「飾ひとづくり・まちづくり・未来づくり」の、このマークの講座もかなり地域の課題解決にアプローチするようなテーマも含まれているとすると、ここに葛飾学プラス、こうしたボランティア・地域参加の講座というのが複数講座設置されている。

ただ、これも、単発がやはり多いかなというところです。

○事務局　特徴としては、そうなります。

○副議長　いかがでしょうか、ここまでのところ何か、ここの空欄を埋めていっていただければと思っているのですが、何か足りないところがあればご指摘いただいて。

では、次の「学習支援」の列を見たいと思います。伺いながら、「学習支援」というよりも、「つながり創出のための体制」とカテゴライズしたほうがいいのではないかなと、思いました。つまり荒川区、杉並区はそれぞれの区民大学を通じて、別にサークル化する必要はないのだけれども、「つながり」は創出しようというのがしっかりと理念

に掲げられている。その「つながり創出」のための仕掛けや体制として、荒川区の場合は、社会教育職員が個別相談窓口を作って対応している。また、サークルにしたいというときには、継続的に相談に乗るという「サークル化支援」を常時行えるように体制を作っている。

杉並区の場合は、先ほど来、話題に出ていますけれども、「学習支援者」。プロの人もいれば区民の人もいるのですが。そして、ここの元受講生が「学習支援補助者」という形でも関わっているという形で、とりわけ「学習支援補助者」は、元受講生が多いので、「学びの循環」の１つの仕組みになっている。

ここについては、つながり創出のための体制ということで見ると、今、皆さんのお話からすれば、葛飾区は「区民運営委員会」というのがここに来るのかもしれないなとちょっと思ったのですが、何かお気づきの点があれば。

○緒方委員　こども食堂の講座をやらせていただいて、出会いがあって、そこから自分自身はＮＰＯとして活動を継続して広げてきたのですけれども、それがきっかけとなって、区内でたくさんの方がこども食堂を自分もやりたいという方がいらしたのです。その方たちが、区役所の子育て支援課とか、社会福祉協議会の地域貢献活動サポートセンターとかに行くと、「緒方さんに聞いてください」となって、うちに来るのです。

狭い事務所に時間を決めて来ていただいて、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいとやる。本当に素人アドバイザーで。だから私が「学習支援補助者」的な立場にいるのではないかなと思ったのですが、それがすごく大変なのですよ。自分も素人で、一生懸命やっているわけではないですか。失敗しながらやってきた自分の経験を、もう、何度も何度も同じ話をいろいろな人にして、「頑張ろうね」と協力して。もちろん何の報酬もないですし、自分の活動をしながらそういった助力をしていくのがすごく苦しくて、社協、ボランティアセンターで何でやってくれないの？と、本当にいつも思っています。

だから継続し、拡大し、深めていく、循環させていくことを支える体制が欲しいなと、心から思っております。

○副議長　ここは行政側がしっかりと安定的に人を出しているのですよね、荒川区、杉並区は。

○事務局　そうですね。葛飾区はそこが足りないと思います、議論も含めて。

○副議長　とすると、今後議論の課題の１つになるということですね。運営委員会が実質学びの循環の場にもなっている発見というか、それと同時に今の緒方委員がおっしゃるようなことも１つの課題として今、はっきりしたかなと。

○齋藤委員　「学習支援者」というよりは、企画提案をして講座を運営するというのが「運営委員」の役割なので、支援者とも補助者ともちょっと立ち位置が違います。

○議長　具体的な活動に何か支援する、ということはやっていないわけですね。

○齋藤委員　ないですね。「企画運営者」ということですね。企画立案後承認を経て、学びを提供するというのが現状です。それも区民大学全体の中のちょっとしか企画できていないのが現実なのです。

　ただ、荒川とか杉並がやっていることを葛飾区に置き換えると、区民運営委員がやっていることとすごく似ているなと。だから、そこをどう考えていくか。区民大学だけで考えてしまうと、もういろいろな課がそれぞれにやっているものも含まれるので、この辺りがもしかしたらちょっと違うのかもしれないです。

○副議長　先ほど、今後の期待として、ＯＢ・ＯＧが３期で終わってしまう、もったいないというお話がありましたね。だからここは括弧というのか、将来的な希望というか期待として、この「ＯＢ・ＯＧ」でしょうかね、もし入るとしたら。そういう人たちが今度は同窓会というか、杉並区の場合は「連」というのを作って、今度は自分たちでＯＢ・ＯＧ会を作って、自分たちが今度は講師を探してきたりとか交渉したりという動きも見せている。また「学習支援者」としても講座に入っていくことも考えると、もしかしたら「運営委員会ＯＢ・ＯＧ同窓会」みたいなのが、今度は学習支援に入っていける。

○澤村委員　区民運営委員会の中でも意見がいろいろ出るのです。それを１つにまとめて講座にしていくというのは、やはり大変な面もあるのですね。そこにリーダー的な人がいて、意見を押しつけられても困るのですけど、意見の方向性をまとめる助言者みたいな方がいてくれるのも、またいいのかなという気がしました。

　今、あえて生涯学習課の方々は口を出さないというか、自主性を重んじてくれている所もあると思います。どちらがいいのかというのもあります。それから、任期が切れると、またリセットされて最初から同じような議論を続けることになってしまうわけですよね。そこに今、言ったＯＧ・ＯＢの方がちょこっといて、これも立場が難しいなと思うのですけど、今まではこんなこともありましたということが言えるとつながるのかな。でも、実際には難しいですよね。

○事務局　難しいですね。私が担当していたときに、もう既に運営委員の皆さんから、３期６年というのも、途中からできた仕組みなので、それはある意味、長くいる人と新しい人の意見を調整していくことの難しさもあって、しかもある程度やった方々が地域で実際に活動していくという姿も必要なことなので、ずっと運営委員会というよりは、実際に地域の中で活動していくことも大事なので、上限を設けさせていただいたのです。上限を設けていくと卒業した人たちの同窓会を作ったほうがいいのではないかという意見が出ていたのは事実です。ただ、同窓会を作るのは簡単なことなのですけど、その人

たちと現役の人たちとの関係をどう考えるかとか、その人たちの立ち位置はどうするのかとか、そういったところでいうと、一概に作って何か役割を与えたりとか、実際にやってもらうことを一緒に考えたりということが結構難しいことだったりするので、そこは学習支援者とか学習支援補助者として区民運営委員のＯＢ・ＯＧとして関わっていただくというのは、表面上はすごくいい仕組みだと思うのですけど、逆に関係性の問題だとか、そういったところをうまく整理しないと、そこは難しいことかもしれないと思います。

○議長　今日はその辺で議論をすると時間が過ぎてしまうので、課題として、ただいま澤村委員がおっしゃったように、物事を決めて合意形成していこうというときに、なかなかしにくいときにどうしていったらいいのだろうか、というところで、場合によってはアドバイスできる方とか民主的なファシリテーションができる人とか。そういったトレーニングみたいなものも企画運営者には求められるかも知れないですね。

大きな問題提起を、澤村委員からいただきました。また、仲介・支援組織の役割、それはやはり緒方委員が担うのではなくて、きちんと自治体として整備していくということなど、ボランティア地域活動貢献センターがあるわけですから、人に任すのだったらお金を払え、ということも思ってしまいます。

○副議長　あとは、「成果発表」で、これは何か同窓会とかそういうフェスティバルとかというのは、葛飾区はどうですか。

○事務局　今はないですね。

○副議長　学んだ後にまたみんな集まって交流というのは、ない。

○事務局　ないです。

○副議長　そこは１つまた、もしかしたら今後の検討課題かもしれないですね。

あとは、広報は区報なのですかね。

○事務局　区報と、「まなびぷらす」。あとは note を活用して、区民大学の情報については、ＰＲもそうですし、それから講座を作ったときの裏側の話とか、報告とか、そういったものは note を活用してやっています。

○副議長　１つ課題なのは、アンダーサーティ、20 代、30 代、あるいは場合によっては 10 代の若い世代にどうアプローチするかというところが、他の２区は特化したアプローチをかけているので、そこは葛飾区の場合どうしているのか、あるいはどうしていくのかというところも、１つ検討の課題なのかもしれないですね。

ただ、これはあくまで区民大学を再検討するためのあれではないので、今回テーマはあくまで「学びの循環」ということにもう１回立ち戻って。でも、これを１つの事例とすると、こういったことが課題として大分明確に浮き彫りになってきたというところで

しょうか。

○議長　ありがとうございました。改めていろいろなことを確認できたと思います。今のお話と資料３にある課題を整理したものを使いながら、できれば次回大雑把な構成、柱建てみたいなものをお出しできればお示しして、中身の議論もできたらと考えています。

（４）今後の会議の進行について

○議長　次回以降の日程等について、お願いします。

○事務局　資料４をご覧ください。前回曖昧だったところも含めてこちらにある日程を確定させていただいてよろしいでしょうか。最終日は、２月４日となります。提言書を教育長に提出しまして、その後、教育委員との懇談を行いたいと思います。

次回は５月 28 日でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長　２月４日の時間についての説明をお願いします。

○事務局　２月４日は教育委員会が午前中にございまして、教育委員が昼食を摂った後、１時半から２時半まで教育委員との懇談を行って、２時半から３時半まで、社会教育委員のみで今期最後のまとめをやっていただければと考えております。

○議長　では２月４日の１時 30 分から２時 30 分まで教育委員さんとの懇談、提言書をお出しする大事な日ですので、ぜひ今から予定をしておいてください。その後私どもの振り返りをすることになっています。貴重な機会ですのでぜひご予定ください。

（５）その他

○議長　今日は、今まで学んできたことを整理する意味でいろいろな意見が出て、大変良かったと思いました。最後に、初めて参加された伊藤委員から感想などお聞きできればと思います。

○伊藤委員　「生涯にわたって学び続ける」というのが大テーマで、いろいろ企画を作ってくださっていて、今までもこの「まなびぷらす」は拝見していたりして、おもしろそうだなと思った時もいっぱいありました。緒方さんのお話にもありましたが、学んで、自分が発信できる機会というのはすごく大事だなと思ったので、そこに波及できるようなホップステップジャンプみたいな筋立てができていくとよりいいのかなと感じました。今日はありがとうございました。

○議長　最後皆様から情報提供、その他はありますか。よろしいですか。以上で終わり

にしたいと思います。お疲れさまでした。

―閉会―